

Kansai Economic Insight Monthly

2017/10/24

Vol.54 September/October

・ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ レポート公開時期は毎月第 4 週火曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet (各 APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の 2 府 4 県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドと CI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	9
中国景気モニター	10
主要月次統計	14
Release Calendar	15

要 旨

-景気は足下、先行きともに緩やかな成長が見込まれる※-

- ✓ 8月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりに前月から上昇したが、7-8月平均は4-6月平均比小幅上昇にとどまった。近畿経産局は「生産は横ばい傾向で推移している」と判断している。
- ✓ 9月の貿易収支は8カ月連続の黒字。米国向けのゲームソフトを中心に遊戯用具が過去最高額となり、輸出の伸びに寄与した。結果、前年比でも黒字幅は拡大した。
- ✓ 9月の消費者態度指数は前月比小幅悪化。一方、景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月ぶりの改善。消費者の節約志向は依然強いものの、好調なインバウンドに加え、秋物商材が好調で全体は上昇した。
- ✓ 7月の関西2府4県の現金給与総額は5カ月連続の前年比増加。「関西コア」賃金指数も3カ月連続の同改善。緩やかではあるものの、賃金は上昇が続いている。
- ✓ 8月の大型小売店販売額は2カ月ぶりの前年比プラス。百貨店は化粧品、宝飾品等が国内需要とインバウンド需要向けで好調。スーパーは牛肉と水産品を中心に食料品が堅調であった。
- ✓ 8月の新設住宅着工戸数は3カ月ぶりの前年比増加となった。利用関係別にみると、持家は6カ月連続、貸家は2カ月連続いずれも減少。一方、分譲は2カ月連続の増加。
- ✓ 8月の有効求人倍率は前月比横ばい。新規求人倍率は2カ月連続の上昇となり、労働需給が引き締まった状態が続く。完全失業率は3カ月連続の改善で、雇用情勢は依然好調である。
- ✓ 9月の公共工事請負金額は4カ月連続の前年比減少。季節調整値で見ると、3カ月連続の増加となったものの、補正予算の効果はすでに剥落しているとみられる。
- ✓ 9月の関空を利用した訪日外客数は前年比+24.0%と7カ月連続で増加しており、インバウンドは好調。また、7-9月期の訪日外客の平均消費額は7四半期ぶりのプラスであった。
- ✓ 中国の7-9期の実質GDP成長率は、前年比+6.8%となり、4-6月期から、-0.1%ポイント小幅下落した。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。
関西全体のCI, 試作CLIの推移は2ページを参照。

【関西経済のトレンド】

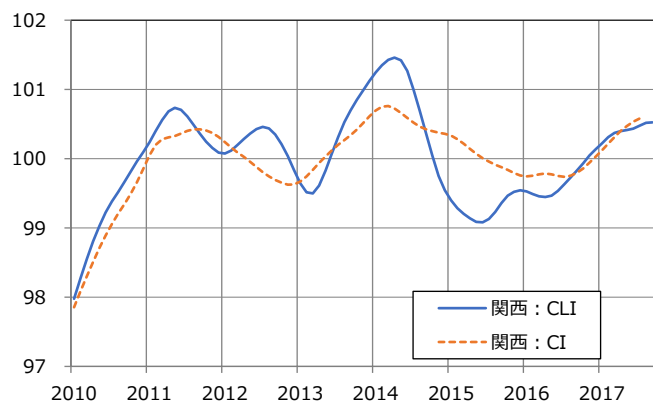
	2016年				2017年								
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生産	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↗	
貿易	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗
センチメント	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↗
消費	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↗	
住宅	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↗	
雇用	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
公共工事	↗	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↘
中国	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗

(※トレンドの判断基準)

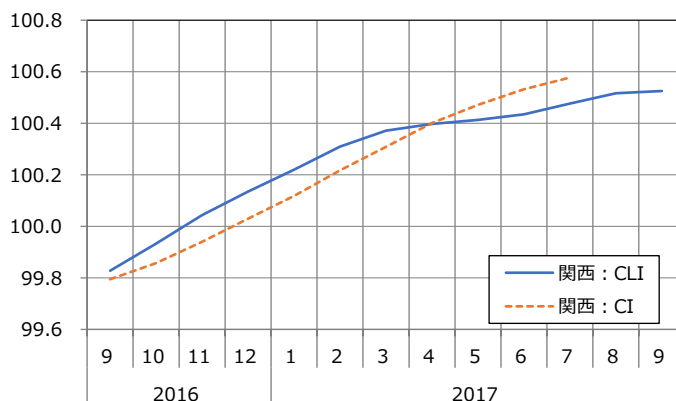
- ・**生産**: 近畿経済産業局『近畿地域工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**: 大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**: 内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**消費**: 近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**: 国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**: 厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**公共工事**: 西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2010年1月～2017年9月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2016年9月～2017年9月)



【鉱工業生産動向】

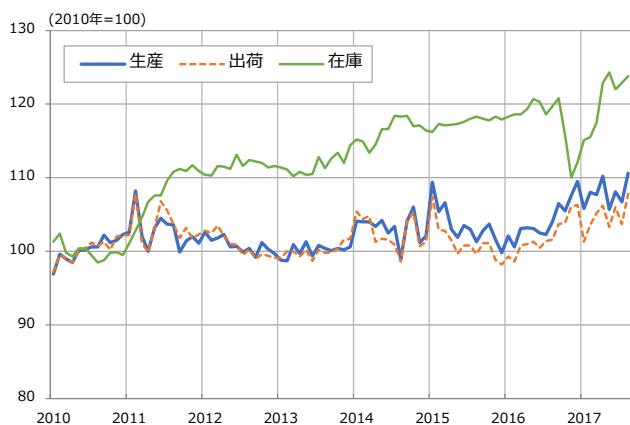
(1) 関西の生産動向

関西 8 月の鉱工業生産動向(速報値：季節調整済、2010 年=100)によれば、生産は 110.6 で、前月比+3.7%と 2 カ月ぶりの上昇。出荷は 107.8 で同+4.0%と 2 カ月ぶりの上昇。在庫は 123.8 で同+0.7%と 2 カ月連続で上昇した。なお、生産と強い関係がある 8 月の実質輸出(季節調整済、2010 年=100)は 109.0 で、同+3.1%と 2 カ月ぶりに上昇した。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比+19.0%、3 カ月ぶり)、化学(除、医薬品)(同+4.7%、3 カ月連続)、輸送機械(除、航空機・鋼船・鉄道車両)(同+5.5%、2 カ月ぶり)が増産となった。一方、情報通信機械(同-12.1%、4 カ月連続)、プラスチック製品(同-1.6%、4 カ月ぶり)、食料品・たばこ(同-1.1%、2 カ月連続)、その他(同-0.1%、2 カ月連続)等が減産となった。

結果、7-8 月平均(生産)は 4-6 月平均比+0.6%上昇した。近畿経済産業局は 8 月の基調判断を「総じてみれば、生産は横ばい傾向で推移している」と前月から据え置いた。

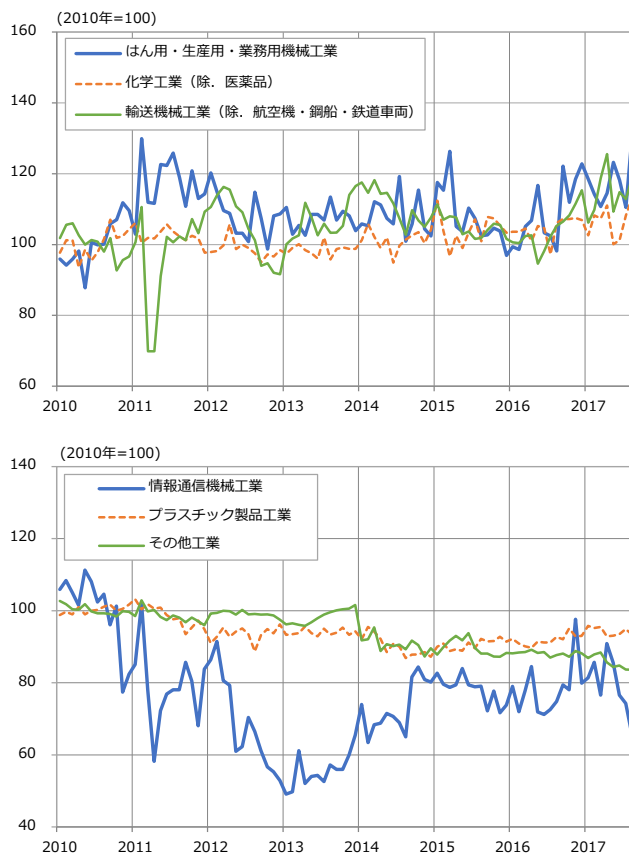
関西の鉱工業生産動向の推移(2010 年 1 月～2017 年 8 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2010 年 1 月～2017 年 8 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

全国 8 月の鉱工業指数(確報値：季節調整済、2010 年=100)の動向を見ると、生産は 103.5 となり前月比+2.0%と 2 カ月ぶりの上昇。出荷は 101.8 で同+1.8%と 2 カ月ぶりの上昇。在庫は 107.3 となり、同-0.6%と 3 カ月連続の下落となった。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比+4.1%)、輸送機械(同+2.6%)、電子部品・デバイス(同+1.7%)等は増産となった。一方、化学工業(同-1.1%)、石油・石炭製品(同-3.9%)、食料品・たばこ(同-0.8%)等が減産となった。

製造工業生産予測調査によると、9 月は前月比-1.9%の減産が予測されている。予測が実現すれば、7-9 月期の生産は前期比+0.1%となり、前期から小幅の増産となろう。

全国の鉱工業指数の推移(2010年1月～2017年8月)



(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」

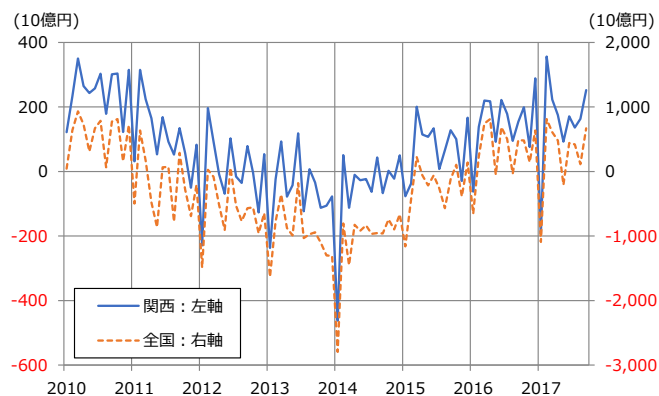
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西9月の貿易収支は+2,525億円と8カ月連続の黒字となった。黒字幅も、前年同月(+1,544億円)と比べて+63.5%拡大した。米国向けのゲームソフトの輸出が伸び、遊戯用具が過去最高額となり、輸出の伸びに寄与した。

また、全国の貿易収支(速報値)は+6,702億円と4カ月連続の黒字となり、2カ月連続で前年から拡大した。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月～2017年9月)



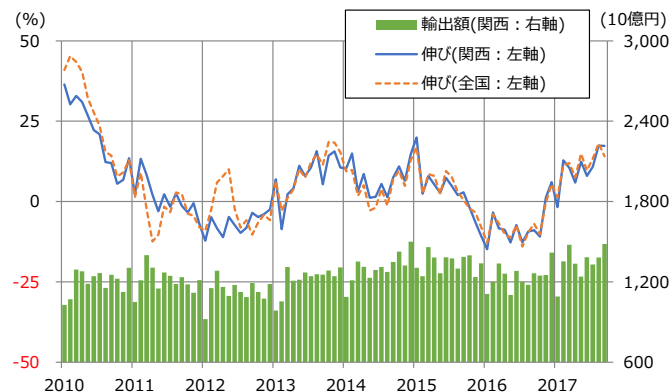
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

関西9月の輸出額(速報値)は1兆4,824億円で前年同月比+17.3%と8カ月連続の増加。財別に見れば、遊戯用具、鉄鋼等が増加した。

全国9月の輸出額(速報値)は6兆8,110億円で、前年同月比+14.1%と10カ月連続の増加。財別に見れば、原動機、半導体等電子部品、及び有機化合物等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月～2017年9月)



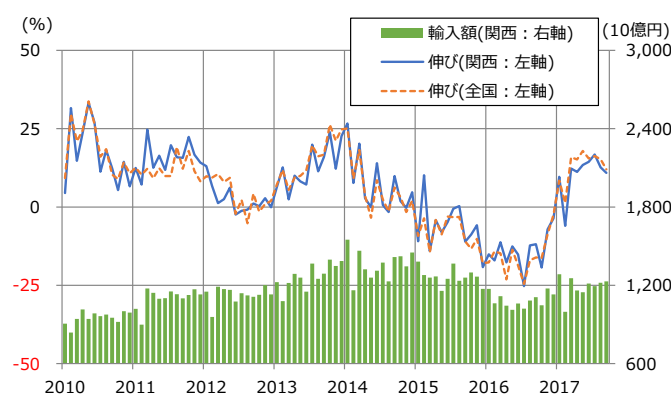
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西9月の輸入額(速報値)は1兆2,299億円、伸びは前年同月比+10.9%と7カ月連続の増加。財別に見れば、医薬品、肉類および同調製品等が増加した。

全国9月の輸入額(速報値)は6兆1,408億円、前年同月比+12.0%と9カ月連続の増加。財別に見れば、原粗油、石炭、及び医薬品等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月～2017年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西9月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)貿易収支は+3,183億円と8カ月連続の黒字となり、黒字幅

は前年同月比+66.0%拡大した。輸出は 8 カ月連続の増加(同+17.3%)。財別に見れば、鉄鋼、半導体等電子部品等が増加した。輸入は 7 カ月連続の増加(同+3.6%)。財別に見ると、がん具及び遊戯用具、半導体等電子部品等が増加した。

うち、対中貿易収支は-208 億円と 7 カ月連続の赤字となった。輸出は 11 カ月連続の増加(前年同月比+29.2%)。財別に見ると、半導体等電子部品、科学光学機器等が増加した。輸入は 7 カ月連続の増加(同+1.2%)。財別に見ると、がん具及び遊戯用具、無機化合物等が増加した。

対米貿易収支は+695 億円の黒字となり、2 カ月連続の増加(前年同月比+2.5%)。うち、輸出は 5 カ月連続の増加(同+16.8%)。財別に見れば、遊戯用具、建設用・鉱山用機械等が増加した。輸入は 10 カ月連続の増加(同+27.2%)。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、穀物および同調製品等が増加した。

対 EU 貿易収支は-145 億円と 6 カ月連続の赤字となった。輸出は 5 カ月連続の増加(前年同月比+24.9%)。財別に見れば、遊戯用具、建設用・鉱山用機械等が増加した。輸入は 7 カ月連続の増加(同+45.9%)。財別に見れば、医薬品、たばこ等が増加した。

【消費者センチメント】

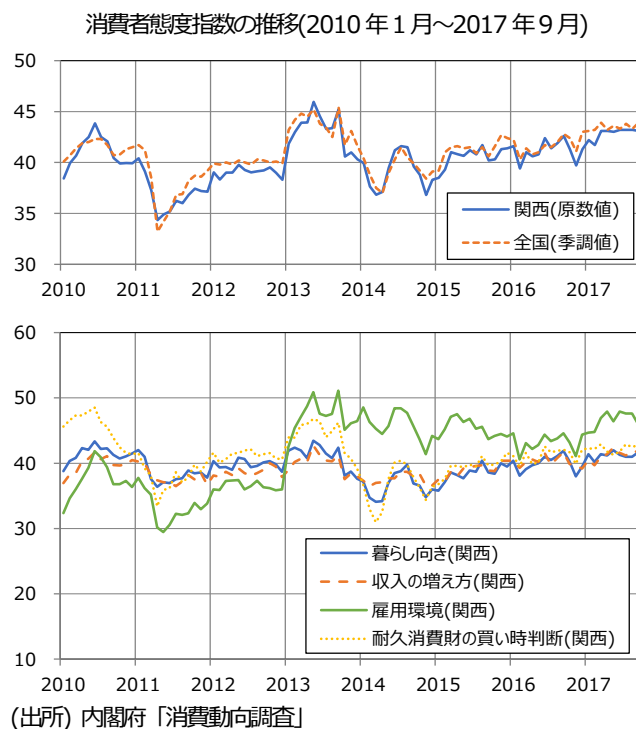
(1) 消費者態度指数の動向

関西 9 月の消費者態度指数(原数値)は 43.1 と前月比-0.1 ポイント低下した(4 カ月ぶりの悪化)。7-8 月は同横ばいののち、9 月は小幅悪化した。全国(季節調整値)は同+0.6 ポイント上昇し 43.9 となり、2 カ月ぶりに改善した。

関西の同指数構成項目を見ると、「暮らし向き」が前月比+0.7 ポイント、「耐久消費財の買い時判断」が同+0.3 ポイント上昇した。一方、「収入の増え方」は同横ばい、「雇用環境」は同-1.7 ポイント下落した。

また、全国の同指数は 4 項目全てで改善した。項目別に見ると、「耐久消費財の買い時判断」が前月比+0.9 ポイント、「暮らし向き」が同+0.8 ポイント、「収入の増え方」が同

+0.5 ポイント、「雇用環境」が同+0.4 ポイント上昇した。夏場にかけて続いた長雨による野菜価格の高騰などに対する懸念が和らいだことから、消費者心理が一段落したとみられる。内閣府は消費者心理の基調判断を「ほぼ横ばいとなっている」として据え置いた。



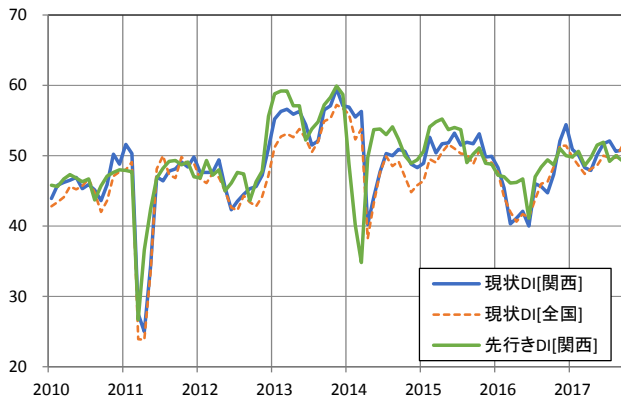
(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西 9 月の景気ウォッチャー現状判断 DI(季節調整値)は 50.8 と前月比+0.2 ポイント小幅上昇。景況感の良し悪しの分かれ目となる 50 を 5 カ月連続で上回り、2 カ月ぶりの改善となった。関西では、依然消費者の節約志向が強いものの、インバウンドが引き続き好調であることに加え、気温が例年よりも低く、秋物商材が好調だったことなどから、全体は上昇した。また、全国の同指数は 51.3 と同+1.6 ポイント上昇し、3 カ月ぶりの改善であった。

また、先行き判断 DI(季節調整値)は、関西では 49.3 と前月比-0.7 ポイント低下し、2 カ月ぶりの悪化。堅調なインバウンド消費への期待は高いものの、国内外における政治リスクを懸念する声が多く、先行き不透明感が高まっている。全

国も 51.0 と同-0.1 ポイント小幅低下し、こちらも 2 カ月ぶりの悪化が見込まれている。

景気ウォッチャー調査の推移(2010 年 1 月～2017 年 9 月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

関西 2 府 4 県の 7 月の現金給与総額(APIR 推計)は 36 万 9,513 円で前年同月比+0.2%となり、小幅ではあるものの、5 カ月連続の増加。府県別では、奈良県が同+5.2%(8 カ月連続)、京都府が同+2.1%(2 カ月ぶり)、大阪府が同+0.5%(2 カ月連続)とそれぞれ増加した。一方、和歌山県が同横ばい、滋賀県は同-3.9%(8 カ月ぶり)、兵庫県が同-0.9%(10 カ月ぶり)と減少した。

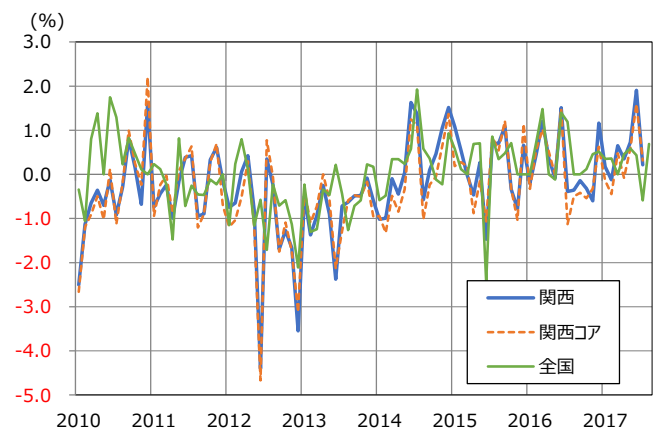
また、7 月の京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金指数(APIR 推計)は同+0.3%増加し、3 カ月連続の改善。緩やかではあるものの、賃金は上昇が続いている。

全国 8 月の現金給与総額(確報値)をみると、前年同月比+0.7%増加し、2 カ月ぶりの改善。内訳をみると、所定内給与は同+0.2%と 5 カ月連続の増加。所定外給与は同+1.3%と 2 カ月連続の増加。特別給与は同+5.7%と 2 カ月ぶりの増加であった。

現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は、前年同月比-0.1%と 3 カ月連続の下落であった。所定内給与の増加が続いている一方で、物価の上

昇から実質賃金が減少しており、消費の押し上げには期待できない。

現金給与総額の推移(2010 年 1 月～2017 年 8 月)



(注)関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)は APIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011 年平均)で加重平均。

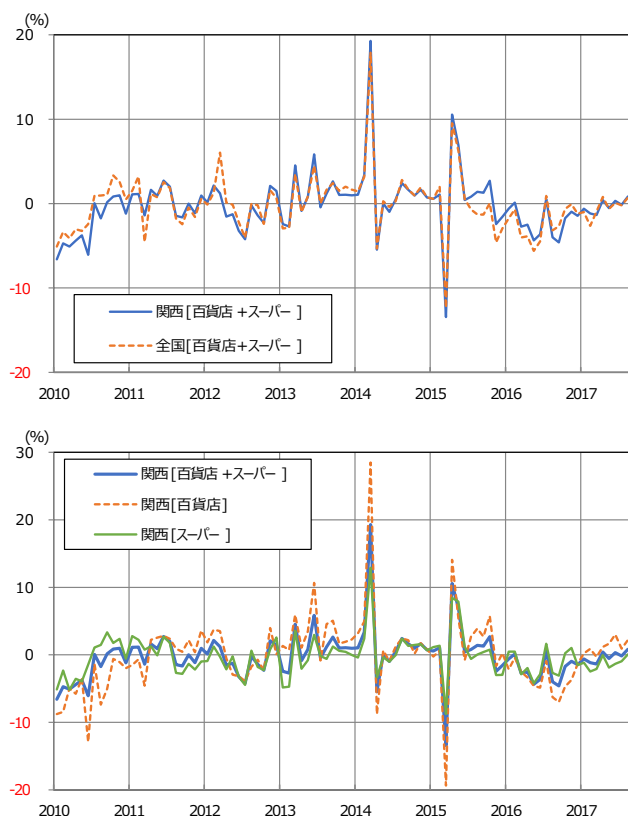
(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」

(2) 大型小売店販売額

関西 8 月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は 3,054 億円となり、前年同月比+0.8%と 2 カ月ぶりのプラス。百貨店は同+2.2%上昇し、5 カ月連続のプラス。化粧品、宝飾品等が国内需要に加え、インバウンド需要向けでも好調に推移している。なお、関西の百貨店免税売上(日銀大阪支店)によると、8 月は前年同月比+103.4%(前月:+89.8%)と 2015 年 10 月(同+121.6%)以来の高い伸びとなった。また、スーパーは同+0.1%と 9 カ月ぶりのプラス。食料品が堅調であり、中でも、牛肉の伸長と、ウナギやサンマを中心に、水産品の回復が目立った。

全国 8 月の大型小売店販売額(全店ベース)は 1 兆 5,656 億円と、前年同月比+0.7%と 2 カ月ぶりのプラスであった。百貨店は同+0.5%と 2 カ月ぶりのプラス。また、スーパーは同+0.8%と 3 カ月連続のプラス。小売業販売額(季節調整値)の前月比後方 3 カ月移動平均を見ると、前月比-0.1%の低下となった。これを受け、経済産業省は基調判断を「持ち直しの動きがみられる」と前月から据え置いた。

大型小売店販売額の推移(2010年1月～2017年8月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(3) 新設住宅着工の動向

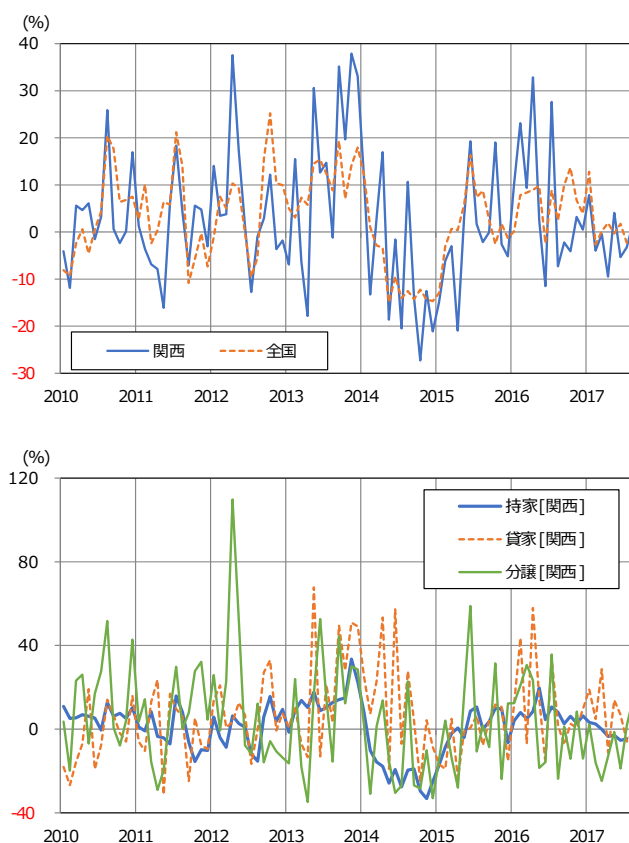
関西 8 月の新設住宅着工戸数は 11,790 戸と前年同月比 +1.8% となり、3 カ月ぶりの増加となった。全国は 80,562 戸と同-2.0%と 2 カ月連続の減少。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は 2,878 戸で前年同月比-9.0%と 6 カ月連続の減少。貸家は 4,628 戸で同-1.2%と 2 カ月連続の減少となった。一方、分譲は 4,259 戸と同+14.4%と大幅に増加し、2 カ月連続の増加であった。全国をみると、持家は 24,379 戸で前年同月比-7.4%と 3 カ月連続の減少。貸家は 34,968 戸で同-4.9%とこちらも 3 カ月連続の減少。一方、分譲は 20,728 戸と同+12.0%増加し、3 カ月連続の増加であった。前年の反動から持家が減少したことに加え、貸家も相続税の節税を目的としたアパート建設に一服感が見られた。引き続き、今後の動向を注意する必要がある。

関西 9 月のマンション契約率は、76.5%(季節調整値：

APIR 推計)と、好調の指標となる 70%を 12 カ月連続で上回り、引き続き好調を維持している。しかし、前月比-3.3%ポイントと、2 カ月ぶりに低下した。一方、首都圏は 65.6%(季節調整値：APIR 推計)と同-4.2%ポイント低下し、4 カ月連続で 70%を下回った。首都圏では、新規大型案件が少なく、低調が続いている。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月～2017年8月)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

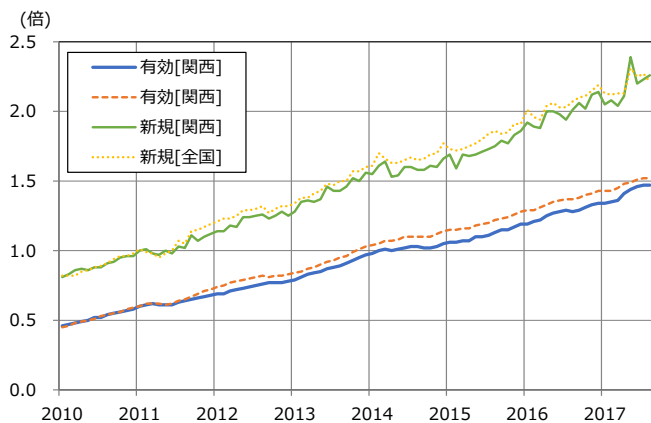
関西 8 月の有効求人倍率は、1.47 倍で前月比横ばいであった。内訳をみると、有効求人数が同-0.7%と 6 カ月ぶりに減少しており、企業の求人意欲が一服した可能性がある。全国も 1.52 倍で同横ばいとなっており、依然として 1974 年 2 月(1.53 倍)以来の高水準が続いている。

関西の有効求人倍率を府県別にみると、奈良県が前月比 +0.03 ポイント、兵庫県で同+0.02 ポイントそれぞれ上昇

した。一方、京都府・和歌山県では同-0.03 ポイント、大阪府・滋賀県では同-0.01 ポイント低下していた。

関西 8 月の新規求人倍率は、2.26 倍で前月比+0.03 ポイントと 2 カ月連続の上昇となった。新規求職者数と新規求人数が共に上昇しており、労働需給が引き締まった状態が続いている。雇用情勢は好調であるといえよう。また、全国は 2.21 倍で同-0.06 ポイントと 2 カ月ぶりの低下であった。

求人倍率の推移(2010 年 1 月～2017 年 8 月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下表も同様)

関西 2 府 4 県有効求人倍率(2017 年 7-8 月)

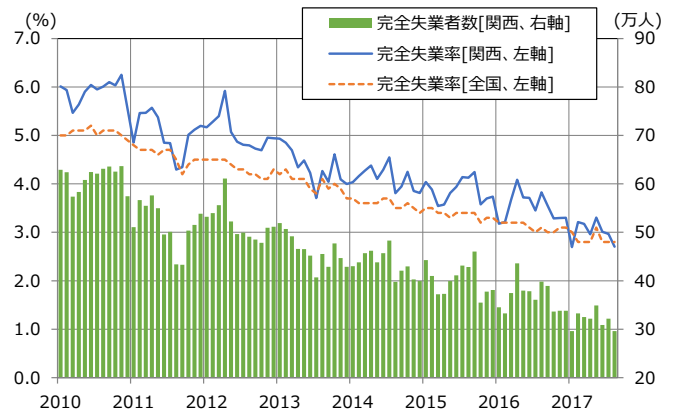
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
8 月	1.52	1.47	1.30	1.54	1.59	1.32	1.33	1.30
7 月	1.52	1.47	1.31	1.57	1.60	1.30	1.30	1.33

(2) 完全失業率の推移

関西 8 月の完全失業率(季節調整値 : APIR 推計)は 2.7% と前月比-0.3%ポイント低下し、3 カ月連続の改善。労働力人口と雇用者数が共に増加しており、好調な雇用環境を背景に労働参加率の上昇が続いている。また、関西の完全失業者数(季節調整値 : APIR 推計)は 29.6 万人で前月から -2.6 万人減少し、2 カ月ぶりの改善であった。

全国 8 月の完全失業率(季節調整値)は 2.8%と、2 カ月連続の前月比横ばい。完全失業者数(季節調整値)は 186 万人で前月から -4 万人減少した。理由別にみると、「非自発的な離職」は同-6 万人減少「自発的な離職(自己都合)」が同-1 万人減少、一方「新たに求職」は+3 万人増加していた。

完全失業率の推移(2010 年 1 月～2017 年 8 月)



(出所)総務省「労働力調査」

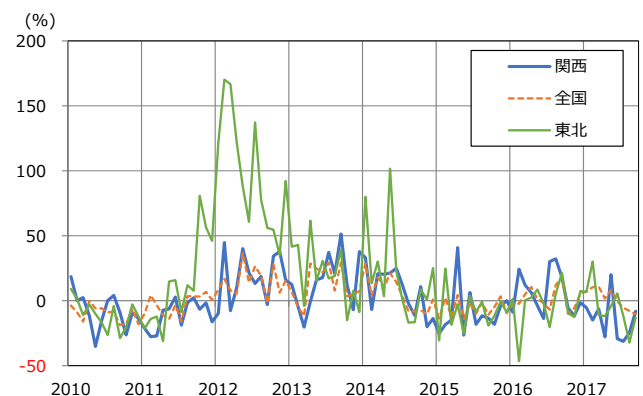
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

関西 9 月の公共工事請負金額は 1,394 億円で前年同月比 -8.1%と 4 カ月連続の減少。全国は 1 兆 3,191 億円で同 -10.4%と 4 カ月連続の減少。東北も 1,985 億円で同 -12.9%と減少し、3 カ月連続のマイナスとなった。

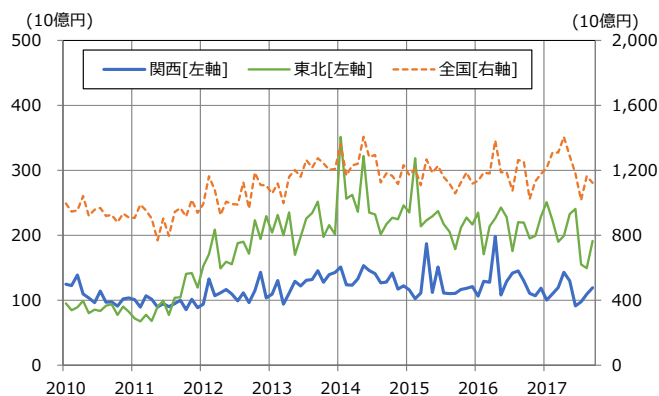
季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西は前月比+9.2%となり、3 カ月連続の増加。全国は同-3.6%と 2 カ月ぶりの減少となった。結果、7-9 月期の関西の公共工事請負金額は前期比-10.3%となり、2 四半期ぶりのマイナス。補正予算の効果はすでに剥落しているとみられる。

公共工事請負金額の推移(2010 年 1 月～2017 年 9 月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

地域別公共工事請負金額の推移(2010年1月～2017年9月)



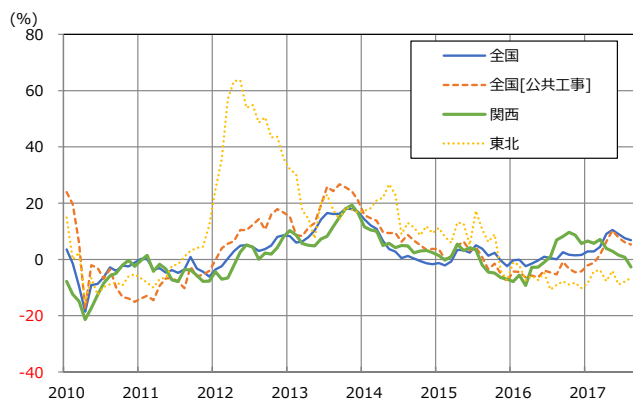
(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西 8 月の建設工事出来高は 5,166 億円となり、前年同月比-2.6%と 14 カ月ぶりの減少。東北については 4,860 億円となり、同-6.6%と 22 カ月連続の減少であった。

全国 8 月の建設工事出来高は 4 兆 4,717 億円となり、前年同月比+6.8%と 15 カ月連続の増加。うち、公共工事は 1 兆 7,117 億円で同+5.3%と、6 カ月連続の増加。関西の建設工事は、全国と異なり減少に転じた。

建設工事出来高の推移(2010年1月～2017年8月)



(注) 2016 年 4 月分より新基準に基づく出来高の参考値を反映。

(出所)国土交通省「建設総合統計」

【関空モニター】

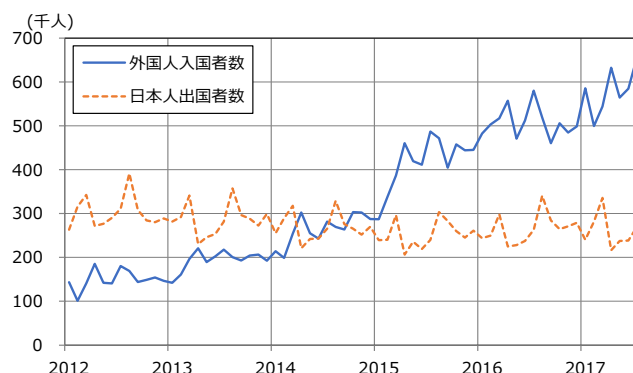
(1) 訪日外客数トレンド

9 月の関空への訪日外客数は 57 万 1,020 人となり、前年同月比+24.0%と 7 カ月連続で増加した。また、6 カ月連続で 2 桁増が続いており、好調である。出外国人数は 53 万

2,490 人と同+23.8%増加しており、外国人旅客総合数(出入国合計)は 110 万 3,510 人と同+23.9%増加した。

また、出国日本人数は 29 万 8,280 人で、前年同月比+5.0%と 5 カ月連続で増加した。訪日外客数、出国日本人数ともに増加が続いている。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月～2017年9月)

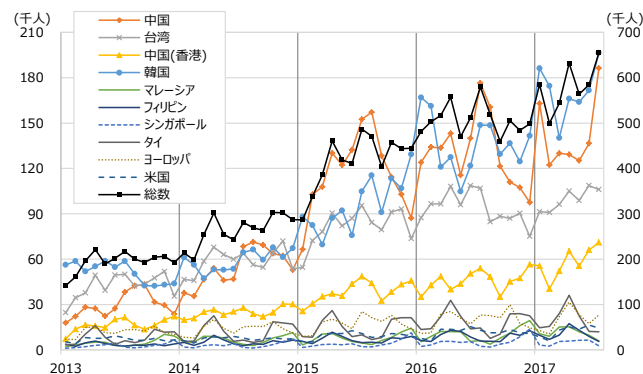


(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

訪日外客数を地域別にみると、7 月は韓国からの入国者数が 19 万 6,421 人と最も多く、前年同月比+32.1%と 2014 年 7 月以来 37 カ月連続のプラスとなり、5 カ月連続で 2 桁増が続いている。次いで、中国(香港除く)が 18 万 6,313 人と 2 カ月ぶりのプラス(同+5.6%)。台湾が 10 万 6,006 人と、3 カ月ぶりの小幅マイナス(同-0.8%)。また、中国(香港)が 7 万 1,092 人と 5 カ月連続のプラス(同+31.8%)であった。韓国や香港を中心とした増便による旅客数の増加が続いている。

地域別訪日外客数(右軸：総数、左軸：各国、2017 年 7 月まで)



(出所)法務省「出入国管理統計」

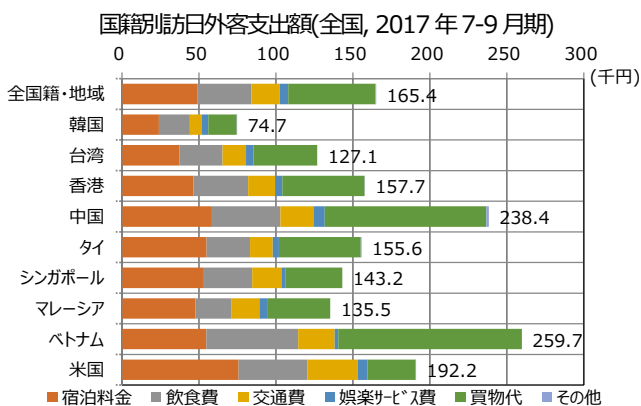
他のアジア各国からの入国者数は、タイが1万1,963人(前年同月比-17.5%)、マレーシアが5,936人(同-5.0%)、フィリピンが5,534人(同-5.4%)、シンガポールが2,666人(同+14.1%)となった。

他地域を見ると、ヨーロッパが2万3,012人(前年同月比-0.1%)、米国が1万4,350人(同+10.2%)であった。

(3) 訪日外客平均支出

2017年7-9月期に日本を訪れた外国人による平均消費額は16万5,412円(前年同期比+6.6%)で7四半期ぶりのプラスであった(4-6月期：同-6.7%)。うち、最も支出額が大きかったのは、ベトナムで平均支出額は25万9,749円(同+60.5%)であった。7-9月期の平均泊数(36.6日)は前期(26.6日)から大幅に増加していることに注意。加えて、9月から関空～ハノイ/ダナン間を結ぶLCCが新規就航し、これに合わせた現地旅行会社のキャンペーンなどが行われている。

その他の国々について支出額が大きい順に見ると、中国が23万8,385円(前年同期比+4.6%)、米国が19万2,162円(同+9.5%)、香港が15万7,652円(同+7.2%)、タイが15万5,627円(同+26.8%)、シンガポールが14万3,155円(同-20.2%)、マレーシアが13万5,524円(同+15.0%)、台湾が12万7,106円(同+6.0%)、韓国が7万4,726円(同+10.0%)であった。



(出所)観光庁「訪日外国人の消費動向」報告書より作成

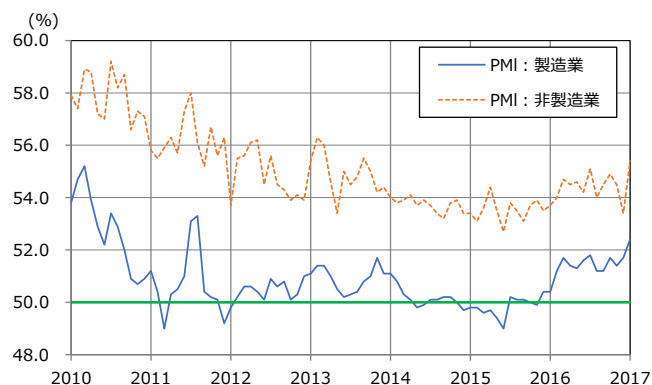
【中国景気モニター】

(1) センチメント

9月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は52.4となり、前月から+0.7ポイント上昇し、2カ月連続の改善であった。また、2016年8月以降、14カ月連続で景気の分岐点である50を上回る状態が続いている。非製造業購買担当者景況指数は55.4となり、前月から+2.0ポイント上昇し、3カ月ぶりのプラスとなった。

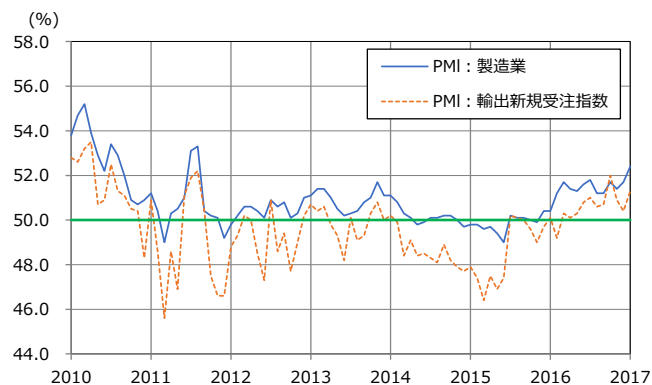
製造業PMIのうち、生産指数は54.7となり、前月比+0.6ポイントと、2カ月連続の上昇。輸出新規受注指数は51.3となり、同+0.9ポイントと3カ月ぶりの上昇。雇用指数は49.0となり、同-0.1ポイントと2カ月連続で下落した。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2010年1月～2017年9月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(2010年1月～2017年9月)

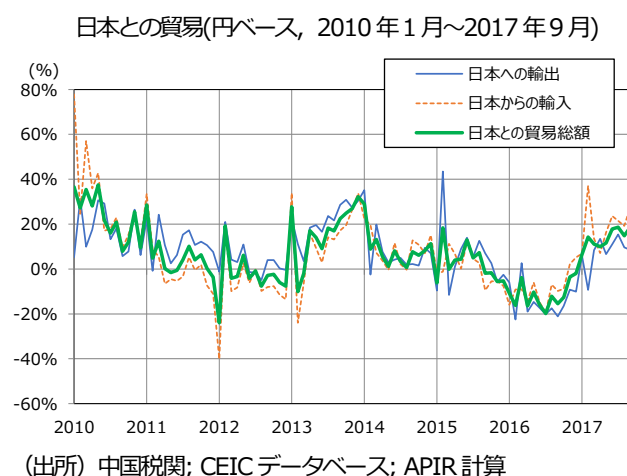
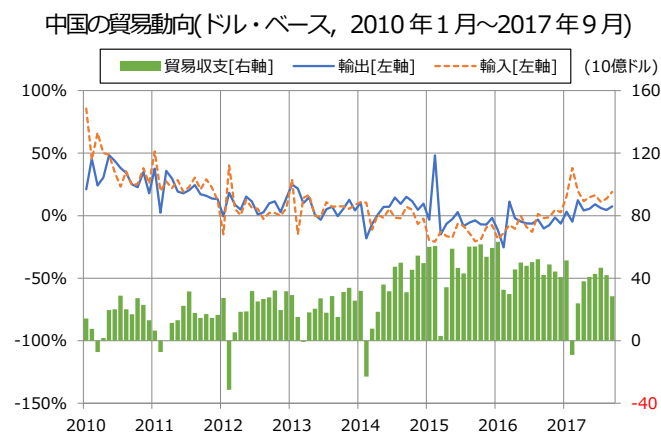


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

9月の貿易収支は+284.7億ドルとなった。黒字幅は前年同月より-135.1億ドル縮小し、貿易収支は14カ月連続で減少が続いている。うち、輸出額(速報値、ドル・ベース)は1,982.6億ドルとなり、前年同月比+7.5%と7カ月連続の増加。輸入額は1,697.9億ドルとなり、同+19.1%と11カ月連続で増加した。

また、対日貿易収支は-39.3億ドルとなり、8カ月連続の赤字となった。対日輸出額は118.3億ドルとなり、前年同月比+0.1%と7カ月連続の小幅増加。対日輸入額は157.6億ドルとなり、同+17.8%と14カ月連続で増加した。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同+8.5%と7カ月連続の増加。また、対日輸入額は同+27.8%と、11カ月連続の増加であった。

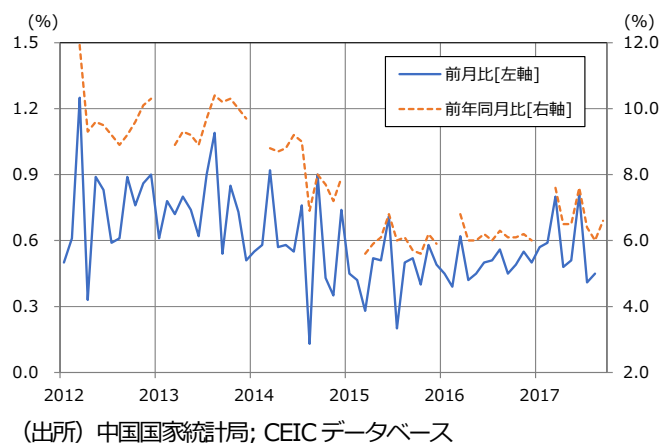


(3) 工業生産

9月の工業生産は前月比+0.56%となり、伸びは前月から+0.11%ポイント上昇し、2カ月連続で加速した。また、前年同月比では+6.6%と前月から+0.6%ポイント上昇し、3カ月ぶりに加速した。

産業別に見ると、パソコン・通信設備製造業(前年同月比+16.3%)、自動車製造業(同+13.7%)、医薬製造業(同+13.2%)、電気機械・機材製造業(同+12.3%)などが高い伸びを示す一方で、鉄鋼などの精錬・圧延加工業(同-1.4%)、有色金属圧延加工業(同-0.9%)、非金属鉱物製品製造業(同+2.7%)などは、比較的低調な伸びにとどまった。

工業生産指数(2012年1月~2017年9月)

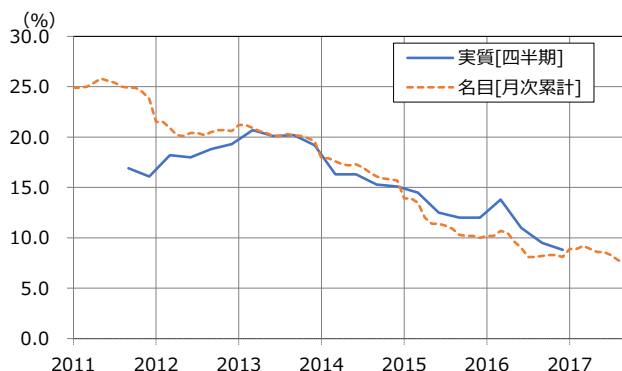


(4) 固定資産投資

1-9月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同月比+7.5%となり、1-8月期より-0.3%ポイント低下し、3カ月連続で減速した。

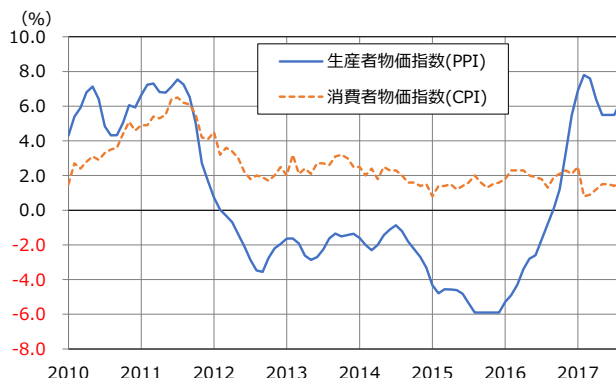
産業別に見ると、第1次産業は前年同月比+11.8%、伸びは前月より-0.4%ポイント下落した(6カ月連続)。第2次産業は同+2.6%となったものの、伸びは同-0.6%ポイント下落(3カ月連続)。第3次産業は同+10.5%と、前月から-0.1%ポイント下落した(2カ月連続)。

固定資産投資(累積伸び率, 2011年1月~2017年9月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

消費者物価指数・生産者物価指数(2010年1月~2017年9月)

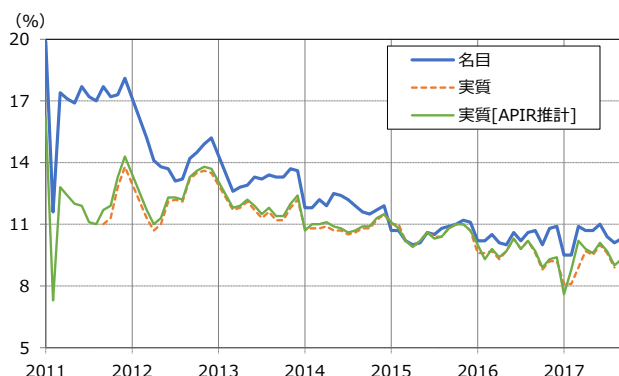


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

9月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+10.3%となり、伸びは前月から+0.2%ポイント上昇し、3カ月ぶりの加速。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、伸びは同+9.3%となり、前月から+0.3%ポイント上昇し、3カ月ぶりに加速した。

社会消費品小売総額(2011年1月~2017年9月)



(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

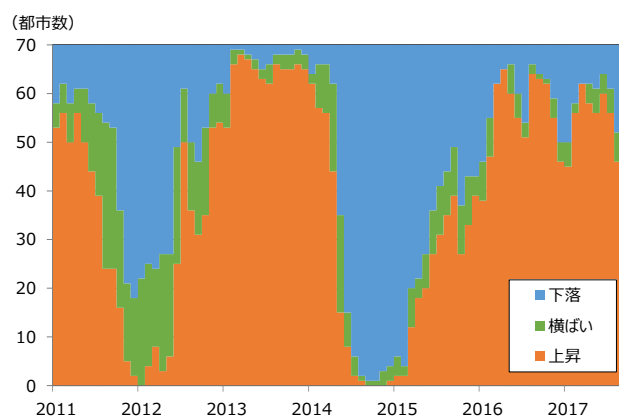
(6) 物価水準

9月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+1.6%で、前月から-0.2%ポイントと2カ月ぶりの低下。また、生産者物価指数(PPI)は同+6.9%となり、前月より+0.6%と13カ月連続で上昇が続いている。環境規制の強化により、生産停止や工場閉鎖が相次いだためとみられる。

(7) 不動産市場

9月の不動産市場は前月より低調であった。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、44都市で前月から上昇したが、前月と比較すると上昇した都市数が2都市減少した。2016年1月(38都市)以来の少なさであった。一方、18都市で価格が前月から下落した。前月と比較すると、下落した都市数は同数であった。また、横ばいが8都市(前月6都市)であった。購入抑制策による影響が広がっており、不動産市場には減速の兆しが見られる。

新築住宅価格の主要都市集計(2011年1月~2017年9月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

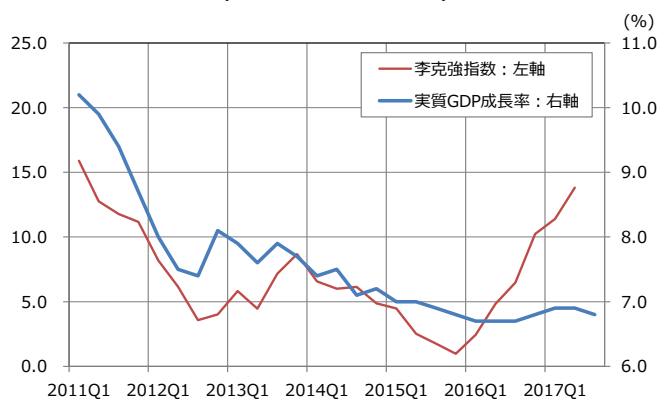
(8) GDP

7-9期の実質GDP成長率は、前年同期比+6.8%となり、4-6月期から-0.1%ポイント小幅下落した。不動産投資や債務拡大の抑制に向けた政府の取組が成長を下押しした。結果、

2017年1-9月期までの(累積)実質GDP成長率は同+6.9%となり、通年では、政府の目標であった6.5%前後の成長を達することがほぼ確実な見込みである。

産業別に見ると、第1次産業の成長率は前年同期比+3.9%、伸びは4-6月期から+0.1%ポイント小幅上昇。第2次産業は同+6.0%で、前期から-0.4%ポイント低下。第3次産業は同+8.0%となり、伸びは前期から+0.4%ポイント上昇した。

リコノミクス指数(APIR試算)と実質GDP成長率の推移
(2017年7-9月期まで)

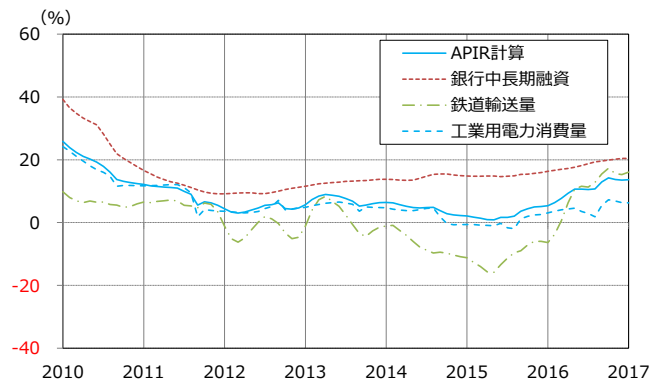


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(9) リコノミクス指数

8月のリコノミクス指数(APIR試算)は前年同月比+13.6%と前月から-0.1%ポイント小幅下落し、2カ月ぶりのマイナス。内訳をみると、銀行中長期融資は同+20.5%となり、伸びは前月から+0.1%ポイント小幅上昇し、20カ月連続で加速している。鉄道輸送量は同+15.7%となり、伸びは前月から-0.3%ポイント低下し、2カ月ぶりのマイナス。工業用電力消費量は同+6.2%となり、伸びは前月から-0.1%ポイント下落し、4カ月連続のマイナスとなった。

APIR試算のリコノミクス指数とその内訳(2017年8月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 木下祐輔・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	16/9M	16/10M	16/11M	16/12M	17/1M	17/2M	17/3M	17/4M	17/5M	17/6M	17/7M	17/8M	17/9M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	44.7	47.3	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	47.9	50.1	51.7	52.1	50.6	50.8
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	49.4	48.7	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6	49.7	51.5	51.9	49.2	50.0	49.3
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	46.3	48.4	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	48.1	48.6	50.0	49.7	49.7	51.3
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	49.4	50.3	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1	48.8	49.6	50.5	50.3	51.1	51.0
消費者心理・小売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	42.6	41.3	39.7	41.3	42.2	41.7	43.1	43.1	43.0	43.2	43.2	43.2	43.1
[関西]「暮らし向き」(原数値)	41.9	40.3	38.0	39.5	41.4	40.2	41.4	41.2	42.0	41.3	41.0	41.0	41.7
[関西]「収入の増え方」(原数値)	41.7	39.9	39.6	39.2	40.5	39.7	41.0	41.4	42.4	41.6	41.2	41.8	41.8
[関西]「雇用環境」(原数値)	44.6	43.2	41.1	44.4	44.7	44.8	46.9	47.9	46.4	47.9	47.6	47.6	45.9
[関西]「耐久消費財の買い時判断」(原数値)	42.1	41.7	39.9	42.1	42.3	42.2	42.9	41.8	41.3	41.8	42.9	42.5	42.8
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	42.8	42.4	41.1	43.0	43.1	43.2	43.9	43.2	43.6	43.3	43.8	43.3	43.9
[関西]大型小売店販売額(10億円)	284.2	311.0	323.8	406.5	330.9	286.6	313.8	304.4	309.0	304.9	339.1	305.4	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	-4.6	-1.7	-1.0	-1.4	-0.6	-1.2	-1.4	0.4	-0.5	0.3	-0.1	0.8	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,470.5	1,596.6	1,647.9	2,067.6	1,674.3	1,449.3	1,631.1	1,558.3	1,588.1	1,569.4	1,717.9	1,565.5	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	-2.7	-0.7	-0.1	-1.2	-1.0	-2.6	-0.9	0.8	-0.6	0.1	-0.2	0.7	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	11,435	12,346	12,257	11,079	11,409	10,639	11,795	11,812	11,115	12,002	12,601	11,790	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	-2.2	-4.1	3.2	0.5	7.8	-4.0	-0.4	-9.5	4.1	-5.4	-3.3	1.8	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	85,622	87,707	85,051	78,406	76,491	70,912	75,887	83,979	78,481	87,456	83,234	80,562	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	10.0	13.7	6.7	3.9	12.8	-2.6	0.2	1.9	-0.3	1.7	-2.3	-2.0	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	69.1	70.9	73.7	72.7	81.2	76.5	70.9	78.3	76.4	77.9	70.2	79.8	76.5
[関西]マンション契約率(原数値)	68.1	71.8	75.4	69.2	75.1	74.5	73.3	78.2	79.9	80.2	73.6	80.0	74.5
[全国]マンション契約率(季節調整値)	73.2	64.0	61.3	79.6	63.7	67.2	64.0	66.5	79.3	65.0	67.4	69.8	65.6
[全国]マンション契約率(原数値)	72.0	61.6	62.5	76.6	61.6	68.4	66.2	66.3	79.9	67.2	71.9	68.2	64.9
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	151.7	116.3	75.4	95.8	60.9	68.1	118.1	201.8	147.3	122.4	120.3	102.7	139.4
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	18.0	-5.5	-11.7	-1.5	-5.4	-14.9	-6.2	-27.8	20.0	-29.2	-31.3	-24.7	-8.1
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,471.6	1,127.3	822.0	851.4	699.7	769.3	1,485.9	2,064.6	1,242.1	1,518.5	1,288.8	1,149.4	1,319.1
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	18.1	-10.0	-5.7	5.3	7.1	10.4	10.9	1.7	8.5	-0.6	-5.4	-7.9	-10.4
[関西]建設工事(総合、10億円)	551.5	580.6	597.5	599.1	589.8	583.1	557.2	470.9	4,651.4	483.7	500.3	516.6	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	8.2	9.6	8.7	5.7	6.6	5.7	7.1	3.9	3.0	1.5	0.8	-2.6	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,503.7	4,704.9	4,767.6	4,795.4	4,727.3	4,636.8	4,607.2	3,902.3	3,903.1	4,095.9	4,241.2	4,471.7	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	2.6	1.6	1.5	1.6	2.8	2.9	4.5	9.1	10.5	9.0	7.5	6.8	UN
[関西]建設工事(公共工事、10億円)	1,849.8	1,999.0	2,034.4	2,068.4	2,049.1	2,008.4	2,036.8	1,450.6	1,428.6	1,505.1	1,568.4	1,711.7	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	-0.9	-3.3	-4.6	-4.3	-2.1	-1.2	1.7	6.4	10.3	7.7	6.1	5.3	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	106.5	105.5	107.6	109.5	105.8	108.0	107.7	110.2	105.7	108.1	106.7	110.6	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	2.4	-0.9	2.0	1.8	-3.4	2.1	-0.3	2.3	-4.1	2.3	-1.3	3.7	UN
[関西]「出荷指数(原数値、前年同月比%)	4.4	1.3	9.1	6.0	3.7	4.2	0.9	4.6	3.8	5.4	2.3	6.1	UN
[関西]「在庫指数(原数値、前年同月比%)	2.4	-1.7	-7.1	-5.1	-2.7	-2.6	-1.0	3.0	3.0	1.4	3.7	3.4	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	103.7	103.9	106.1	106.3	101.3	103.6	105.2	106.2	103.3	106.0	103.7	107.8	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、前月比)	2.1	0.2	2.1	0.2	-4.7	2.3	1.5	1.0	-2.7	2.6	-2.2	4.0	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	120.8	115.8	110.0	112.1	115.1	115.5	117.5	122.9	124.3	122.0	122.9	123.8	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、前月比)	0.9	-4.1	-5.0	1.9	2.7	0.3	1.7	4.6	1.1	-1.9	0.7	0.7	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	98.6	98.9	99.9	100.6	98.5	101.7	99.8	103.8	100.1	102.3	101.5	103.5	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	0.3	0.3	1.0	0.7	-2.1	3.2	-1.9	4.0	-3.6	2.2	-0.8	2.0	UN
[全国]「出荷指数(原数値、前年同月比%)	0.8	-1.8	5.0	2.4	4.2	3.7	3.5	4.9	5.4	5.3	4.1	5.8	UN
[全国]「在庫指数(原数値、前年同月比%)	-2.7	-3.6	-5.5	-5.3	-5.0	-3.9	-4.0	-1.1	-1.3	-2.9	-2.3	-2.9	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	96.8	97.9	98.9	98.9	97.8	99.2	98.4	101.1	98.2	100.7	100.0	101.8	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、前月比)	0.6	1.1	1.0	0.0	-1.1	1.4	-0.8	2.7	-2.9	2.5	-0.7	1.8	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	109.9	108.5	106.6	107.3	107.4	108.1	109.7	111.3	111.3	109.1	107.9	107.3	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.5	-1.3	-1.8	0.7	0.1	0.7	1.5	1.5	0.0	-2.0	-1.1	-0.6	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-0.1	-0.3	-0.6	1.2	0.2	-0.1	0.6	0.4	0.7	1.9	0.2	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	-0.4	-0.5	-0.3	0.6	-0.1	-0.4	0.5	-0.1	0.6	1.6	0.3	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.0	0.1	0.5	0.5	0.3	0.4	0.0	0.5	0.6	0.4	-0.6	0.7	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	3.6	3.3	3.3	3.3	2.7	3.2	3.2	3.0	3.3	3.0	3.0	2.7	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.8	3.3	3.0	2.9	2.8	3.3	3.2	2.9	3.2	3.0	3.1	2.9	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	3.0	3.0	3.1	3.1	3.0	2.8	2.8	2.8	3.1	2.8	2.8	2.8	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.06	2.02	2.12	2.14	2.05	2.08	2.04	2.11	2.39	2.20	2.23	2.26	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.10	2.11	2.15	2.19	2.13	2.12	2.13	2.13	2.31	2.25	2.27	2.21	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.29	1.31	1.33	1.34	1.34	1.35	1.36	1.41	1.44	1.46	1.47	1.47	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.38	1.40	1.41	1.43	1.43	1.43	1.45	1.48	1.49	1.51	1.52	1.52	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	154.4	198.9	75.7	289.0	-193.8	356.5	222.8	175.0	92.8	170.1	137.0	163.0	252.5
[関西]輸出(10億円)	1,263.7	1,245.9	1,251.1	1,418.9	1,090.9	1,353.4	1,476.8	1,335.6	1,239.8	1,383.9	1,329.4	1,382.2	1,482.4
[関西]輸出(前年同月比%)	-8.9	-10.9	1.1	6.0	-1.7	12.8	10.4	5.9	12.4	8.0	10.8	17.4	17.3
[関西]輸入(10億円)	1,109.3	1,047.0	1,175.4	1,129.9	1,284.7	996.9	1,254.0	1,160.6	1,146.8	1,213.2	1,192.4	1,219.2	1,229.9
[関西]輸入(前年同月比%)	-11.9	-19.3	-7.2	-3.6	9.6	-6.0	12.3	11.2	13.4	14.4	16.7	12.6	10.9

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

Release Calendar for October/November

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
2-Oct 中国製造業 PMI (9月)	3-Oct 消費動向調査(9月)	4-Oct	5-Oct	6-Oct 毎月勤労統計 (8月:速報値)
9-Oct	10-Oct 景気ウォッチャー調査 (9月) 近畿貿易統計 (7月:速報) 近畿貿易統計 (8月:速報)	11-Oct 近畿鉱工業生産指数 (8月:速報)	12-Oct	13-Oct 公共工事前払保証額 統計(9月) 中国輸出入 (9月:速報値)
16-Oct 全国鉱工業生産指数 (8月:速報値) マンション契約率 (9月) 商業動態調査 (8月:速報値)	17-Oct 建設総合統計(8月)	18-Oct	19-Oct 全国貿易統計 (9月:速報) 近畿貿易統計 (9月:速報) 中国固定資産投資 (9月) 中国工業生産(9月) 中国消費小売総額 (9月) 7-9月期中国 GDP	20-Oct 毎月勤労統計 (8月:速報値) 出入国者数(9月) 中国不動産市場 (9月)
23-Oct 中国輸出入 (9月:確定値)	24-Oct	25-Oct 出入国管理統計(8月)	26-Oct 近畿鉱工業生産指数 (8月:速報)	27-Oct
30-Oct 商業動態調査 (9月:速報値)	31-Oct 全国鉱工業生産指数 (9月:速報値) 全国貿易統計 (9月:速報) 新設住宅着工(9月) 求人倍率(9月) 完全失業率(9月)	1-Nov	2-Nov 消費動向調査(10月)	3-Nov